発行所　〒010-1424 秋田市御野場二丁目14-1　医療法人 正観会 御野場病院
TEL 018-839-6141　FAX 018-839-5025
発行人　皆河　崇志　　編集主幹　後藤　真司　　題　字　真田　勢子

第19号

ONOBA HOSPITAL

なおみ

「信頼され、選ばれる病院を目指して」

理念

安全・信頼・連携・地域密着

私たちは、**地域に密着した病院**として、他の医療機関や関係の方々との密接な**連携**のもと、**安全**で心の通った医療・保健・福祉サービスを提供し、患者さんや地域の皆さんから**信頼**され選ばれる病院を目指します。

元気づくり教室プロジェクト

いつまでもいきいきと自分らしく！

元気づくり教室では、当院リハビリスタッフのノウハウを生かした 体操教室を実施しています。

いつまでも健康的で明るく自立した生活を送るために、適度な運動を維持していただくことを目的としています。体操を通じて、地域の皆様の健康増進に貢献できればと思っております。

※この元気づくり教室に参加できる方は、要支援1･2の認定を受けている方、又は日常生活のチェックリストで対象と判断された方です。

【認知症サロン】

ほほえみサロンへようこそ

地域の皆様が気軽に立ち寄りくつろげる場所を提供するため、サロンを通して医療のこと（特に認知症）のことについて身近に感じ、理解を深めていただくために、当院では「ほほえみサロン」という取り組みを行っています。医師・専門スタッフによる医療に関する専門的なお話、認知症専門チームが考えた催し、ボランティアでの楽器の演奏などが行われています。参加された方々にはとてもご好評いただいております。ご興味のある方は、当院スタッフまでお気軽にお問い合わせください。

寸劇　先生も演技されています。

ハーモニカアンサンブル

たくさんの方に参加いただき、大変賑わっています。

先生の講演は、知識を深めるとても良い機会になります。

体操で心も体もリフレッシュ

Relay essay

リレーエッセイ

異常気象

娘が「家が水の下にあるよ。」と大きな声で僕にいう。その時、僕は「ああ。」としか返事ができなかった。

平成29年7月22日、僕は友人家族とキャンプに向かっていた。これで何回目のキャンプだろうか。そう、僕はキャンプという遊びにどっぷり浸かってしまっている。暑かろうが寒かろうが晴れようが雨が降ろうが知ったことではない。その日も雨予想なのは知っていたが何とかなるだろう、くらいの気持ちでキャンプ場に向かった。場所は県南にある某キャンプ場。到着してすぐ、雨がパラパラと降ってきた。急いでタープを張りその下で友人家族が来るのを待つ。その日は常設テントをレンタルしていたので、自分でテントを張る必要がない。自分のテントが雨に濡れるのが嫌なのだ。話は戻るが、友人たちが到着。雨脚が強まったが、キャンプ決行。土砂降りは続く。バーベキューをしていると、足を小川に入れているような感覚になる。まるで、浅い川の中でバーベキューをしているようだ。「さすがにこれはまずかろう」ということで、管理棟に行きコテージが空いていないか確認。あいにく満棟との返事。まぁ、借りようにも手元にある現金が足りなかったのだけれど。管理人からは「帰るなら早めに教えてください。」とツレナイお言葉。管理人の帰る時間が近づいているようで、どっちにしろ早くしてほしいという雰囲気。雷も鳴る。子供が泣く。さぁどうする。友人家族と相談した結果、「雷が落ち着かなければ帰ろう。」ということになった。すると、そのタイミングで雷が（何故か）止む。「これはキャンプを続けろということだな。」メンバー全員が変なテンションで妙にポジティブになりキャンプ続行。その日はドロドロになりながらも楽しい？夜となった。翌日、雨がまだ降りしきるなか後片付けをして、さぁ帰ろうかと車に乗り携帯電話を見るとメールやら電話やらがたくさんきている。何かが起こっているだろうことは、容易に想像できた。メールは県外の友達から「大丈夫か？」という内容。それも一人だけではない。何が大丈夫なのか。折り返しで電話をすると、「秋田が集中豪雨で大変なことになっている。」と。さすがに今キャンプをやっていました、ハハハ、とは言えなかった。また、県内の友人からは写真付きで、「今、家の前に水が流れ込み避難。」とのメール。ラジオで情報を得ながらソロソロと帰ることにする。13号線協和付近が土砂崩れで通行止めとの情報。高速道路も通行止めになっている。帰り道は全て塞がれている状態だったが、とりあえず自宅の方向へ向かった。帰りの途中、大きな川が氾濫している様子をテレビ局が中継している。それを見た娘が冒頭の言葉を言った。自分の家ではないのだけれど言葉にならず、その家の人のことを考えるとやりきれない気持ちになった。神岡の道の駅まで行ったところで、13号線の通行止めが解除。時間はかかったけれど無事自宅に到着。自宅は幸い何事もなかったような顔をして、いつもと変わらずにそこにいてくれた。今まで対岸の火事だった災害が自分の住んでいる地域で起こっているのをまざまざと感じた。

異常気象という言葉は、聞き飽きているほど良く使われている言葉である。あまりに異常気象が続くので、もうそれが通常なのかもしれないと思ったりもするが、どうか「異常」であってほしい、そう願わずにはいられない。

事務局　高橋

第10回 南部圏域の地域包括を考える会 なんケアの会

開催しました！

テーマ

在宅看取りを支える
～幸せな人生の最期を迎えるための支援～

開催日時：平成29年８月18日開催

開催日時：平成 29 年８月 18 日（金）18:00 ～ 19:15
会　　場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」２階地域文化ホール
参 加 者：地域包括支援センター５名、介護事業所関係者 20 名、医療関係者８名、その他１名

ミニ講座　終末期における医療のあり方
『治療しない肺炎について』　御野場病院　診療部長　吉川晴夫 様

事例紹介　在宅看取りの事例紹介
『肺がん末期でホスピス病院入院待機中に、在宅での自然な看取りを
サポートした事例』
秋田在宅ケアセンター訪問看護ステーションこころ　管理者　石川京子 様

平成29年8月18日（金）に「第10回なんケアの会」を開催いたしました。介護関係、医療関係の他多数の職種の方にご参加頂き、誠にありがとうございました。

毎回開催される参加者のアンケートより、在宅看取りをテーマとした要望が多く聞かれましたので、今回からのメインテーマを「在宅看取りを支える～幸せな人生の最期を迎えるための支援～」と致しました。

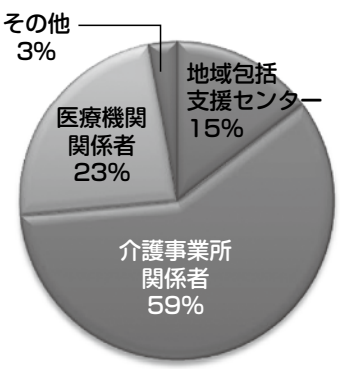
吉川先生からは、2017年4月に改訂された成人肺炎診療ガイドラインから、最新の肺炎治療について詳しく説明していただきました。また、嚥下と誤嚥についての動画による解説はとてもわかりやすく、しっかり理解することができたと思います。これからは個人の意思やＱＯＬを意識した治療・ケアが求められ、人生の最期にはその人の尊厳が全うできるよう、あえて医療行為を行わないという選択肢もある、ということを学びました。

また、訪問看護ステーションこころの石川様からは、ホスピスの待機中の訪問看護の関わり・ケアについて事例紹介していただきました。症状の変化に応じて本人や家族の意向を確認し、頻回に関連職種とカンファレンスを行いながら、きめ細かなケアが提供されていました。親身になって寄り添い支えたことで、最終的にご家族が在宅での看取りを決意されたとのことでした。ご本人は、住み慣れた自宅のベッドでご家族や愛犬に見守られ、安らかな最期を迎えることができたと思います。

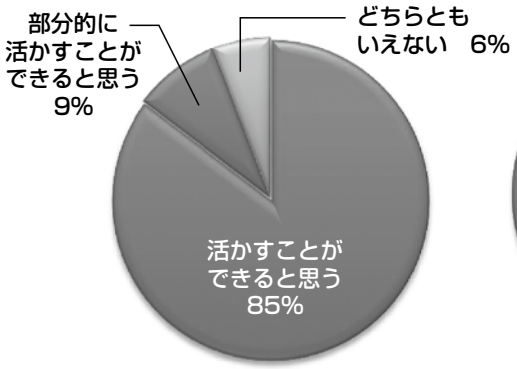
看取りケアを行っていくには、ご家族の不安を受け止め支援すること、他職種と十分な連携をとりサポートしていくことが大切であると改めて感じた事例紹介でした。

アンケートの集計結果

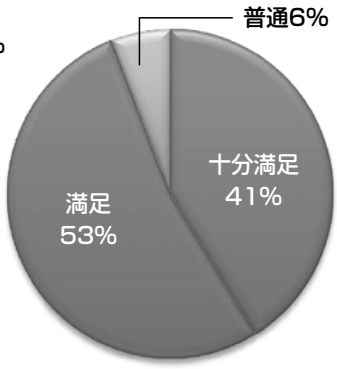
参　加　者



今後、地域での活動に活かすことができそうですか？



なんケアの会に参加していかがでしたか？



皆様からのご意見・ご感想

介護支援事業所関係者

・終末期における方への対応が参考になりました。
・担当者間で連携がきちんととれ、最後まで家族とともに最後まで自宅で過ごせたことは、御本人にとっても良かったのかなと思いました。ケアカンファレンスを通して同じ思いを持つことができたのが良い支援につながったのかなと思いました。

地域包括支援センター

・貴重なお話をうかがい、今後のケアのはげみになりました。ありがとうございました。

医療機関関係者

・外来として関わった事例の訪問看護側の見方（考え方や在宅の裏側の話）を知ることができて、貴重な経験でした。

次回開催のお知らせ

開催日時
平成 29 年 10 月 10 日（火）
18:00 ～ 19:15

会 場
南部市民サービスセンター
「なんぴあ」2 階 地域文化ホール

夏祭り

毎年恒例の夏祭りを開催しました。あおぞら保育園児による御神輿、迫力のある雄和太鼓と竿燈妙技、職員による盆踊りなど、様々な催しが披露されました。

今年も大変暑い夏でしたが、参加された患者さんには大変喜んでいただけたのではないでしょうか。

栄養科より

7月のランチデーについてご紹介いたします。

7月のメニューは、沖縄をイメージした「沖縄料理」で、入院患者さんに沖縄気分を味わっていただきました。

メニュー

○クファジューシー（沖縄風混ぜ込みご飯）
○人参しりしり　○車麸の角煮風
○もずく酢　○シークワーサーゼリー

お肉が苦手な方もいらっしゃいますので、今回は、「豚」の角煮ならぬ、「車麸」を角煮風にしてみました。漬け汁に漬けこんだ車麸は、こんがり焼き目をつけると、香ばしくて本当のお肉のように仕上がりました。『車麸の角煮見事!!!』という感想や、『もずく酢は、口の中がさっぱりしていて、大歓迎！』という嬉しい感想も多数いただきました。

これから、秋が深まり、食べ物のおいしい季節がやってきます。旬のおいしいものをどんどん献立に取り入れていく予定ですので、お楽しみに!!